



イマジン  
ロータリー

国際ロータリー2590地区

KAWASAKI ASAO ROTARY CLUB  
川崎麻生ロータリークラブ

会長 宇津木 茂夫

幹事 木村 良三



大矢 紀

第1404回 例会記録 2023年2月17日(金) S.A.A.委員長 碓井 美枝子

- 【開会点鐘】 宇津木 茂夫 会長
- 【S. A. A】 長瀬 敏之 委員
- 【例会場】 琴 平 会 館
- 【ソング】 ロータリーソング『我等の生業』
- 【ゲスト・ビジター】 なし
- 【夫人誕生日の祝花 贈呈】 鈴木 昭弘 親睦委員長



佐々木範行会員へ  
夫人の誕生日につき  
お祝いの花を差し上げました。



【会長報告】 宇津木茂夫 会長

1. ガバナー事務所より
  - 『トルコ南部大地震被災地』への義援金協力依頼が届いております。  
会員一人当たり 1,000円以上 送金期限 3月10日(金)  
※3月3日の理事役員会で協議、義援金額確定後送金予定
  - 『2023-24年度 地区研修・協議会』のご案内。  
開催形式:動画配信 配信期間:4月10日～6月30日  
負担金:1クラブ 30,000円  
※2/16振込済み。当クラブ 11名登録済み
  - 国際大会(メルボルン)『地区ナイト』へのお誘いと参加者への説明会開催のご案内が届いております。
    - 地区ナイト 5月28日(日)19:00～21:00 ランガムホテル
    - 説明会 4月17日(月)14:00～16:00 ロイヤルパークホテル
2. R米山記念奨学会より、『ハイライトよねやま275号』のご案内。



3. 横浜あざみRCより、招聘卓話のご案内。  
2月22日(水) 12:30～ 新横浜グレイスホテル  
ビジターフィー 4,000円 「私は見たロシア、ウクライナ」  
渡辺 節子氏(SHEJapan 代表取締役)
4. 第40回あさお区民まつり実行委員会より、ご協力への御礼と報告書が届いております。  
※報告:2/3の増強フォーラムの集計報告として、新たな候補者名が5名ほど挙がっております。

【幹事報告】 圓城寺 広明 前幹事

- ★例会変更 ◎川崎西北RC 2/23(木)祭日休会 3/30(木) 第5例会休会 ◎横浜南RC

【出席委員会】 大野 勉 出席委員長

例会	会員	出席	欠席	修正	出席率
1404回	28	15	13		53.6%
1403回	28	15	13	3	64.3%
1402回	28	21	7	1	78.6%

【委員会寄付】

委員会	第1404回(件数)	合計
ニコニコ委員会	13件	¥13,000
ロータリー財団委員会	4件	¥25,000
米山記念奨学委員会	3件	¥30,000

- 第1405回例会 2月24日(金) 創立記念例会 東京国際ゴルフ倶楽部レストラン
- 第1406回例会 3月 3日(金) 定例理事会・招聘卓話 ホテルモリノ
- 第1407回例会 3月10日(金) 招聘卓話 ホテルモリノ

【例会日】 第1・2金曜日 12:30～13:30 【例会場】 ホテルモリノ 新百合丘7F TEL: 044-953-5111  
 【例会日】 第3・4金曜日 12:30～13:30 【例会場】 琴平会館 ほか  
 ※第5金曜日 休会または移動例会、他 連絡先: 川崎麻生ロータリークラブ事務所 TEL: 044-951-1322

## 【ニコニコ委員会 メッセージ】 鈴木豊成 社会奉仕 委員長

◇宇津木茂夫会長【志村会員宜しくお願いします】

◇志村幸男会員【本日は当琴平会館へようこそ】

◇鈴木昭弘会員【志村様お世話になります】

◇青戸慶太会員 ◇梅澤馨会員 ◇大野勉会員

◇親松明会員 ◇梶俊夫会員 ◇佐々木範行会員

◇鈴木憲治会員 ◇鈴木豊成会員 ◇長瀬敏之会員

◇蓬田忠会員 以上、ご協力ありがとうございました。

## 【ロータリー財団委員会 メッセージ】 圓城寺広明 委員長

◇鈴木憲治会員【立春も過ぎ春も直ぐですね！】

◇圓城寺広明会員 ◇大野勉会員 ◇親松明会員

ご協力有難うございました。

## 【米山記念奨学委員会 メッセージ】 親松 明 委員長

◇鈴木憲治会員【毎日寒いですが立春も過ぎ春まじかですね！】

◇大野勉会員 ◇親松明会員 ご協力有難うございました。



## 【会員卓話】「手水舎」について

琴平神社 宮司 志村幸男 会員

本日の卓話は1月に執筆し、2月に発行されました『柿生文化』に掲載された記事「手水舎」についてお話しします。

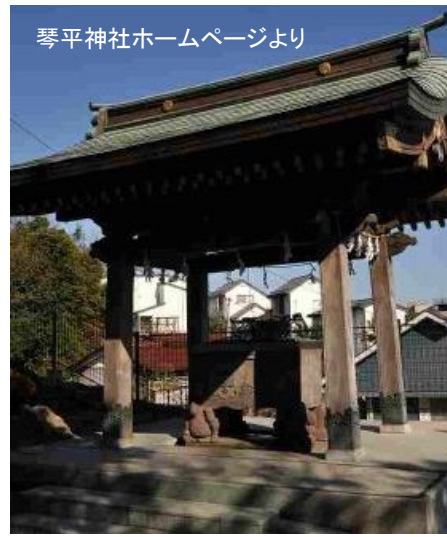
「手水舎」は神社やお寺にお参りする際、必ず手を清める場所があり、古くは家の玄関等でも「つくばい」で手を洗う習慣があり、神社やお寺でも身体を清めてから神前・仏前へ進む習慣が古くからありました。

「手水舎」と言う呼び方ですが、普通は〈てみずや、ちょうずや〉が多いのですが、〈てみずしゃ、ちょうずしゃ 他〉と呼ばれている所もあり、地方によって呼び方が違います。「手水舎」は、水の石鉢やその建物を意味します。

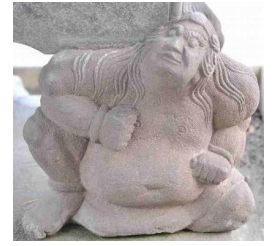
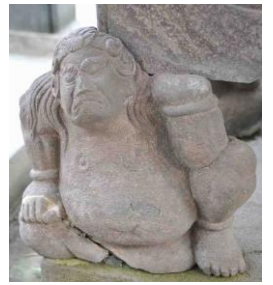
当神社の「手水舎」は昨年10月に川崎市の地域文化財として認定を受けました。4体の山伏の石像が重い石鉢を担いでいます。この彫刻が文化財になっております。この像は「がまんさん」と呼ばれており、願いを叶えるには忍耐が必要であるということを伝えております。

コロナ禍により、現在は人感センサーで水が出るようになっておりますが、神社によってお清めをする形は様々です。

お清めをする習慣が日本に芽生えたのは、古事記の中の国



琴平神社ホームページより



生みの物語にて、〈イザナギノミコト〉と〈イザナミノミコト〉が国や神様を次々とお生みになり、最後に火の神をお生みになったことで〈イザナミノミコト〉が亡くなってしまい、黄泉の国へお隠れになりました。どうしても一目会いたいと、その後を追った〈イザナギノミコト〉が死の世界で受けた穢れを祓うため、河川に入り「禊」をしたことからだと伝えられています。日本人のお風呂好きも「禊」の習慣からではないかと言われております。

お清めの方法は他にもあって、水でのお祓いだけでなく、6月12月の年に2回行われる大祓の神事では茅の輪が置かれ、茅の輪くぐりが行われます。茅とは川辺に生えている葦ですが、これらはアクをとる作用があるということで、いろいろな所で昔から使われております。この茅を人が通れる程の輪にしたものが、茅の輪くぐりで用いる茅の輪であります。これは河口を表し、罪穢れを遠く遙かな海原へ流し遣るための見立てとされており、お正月の輪飾りもこの茅の輪からきています。

茅の輪については神話の中で〈スサノオノミコト〉が旅先で、一晚の宿を村に住む兄弟に頼んだところ、豊かな暮らしぶりの弟は拒否し、兄は貧しいながらも手厚くもてなしたことで恩を感じ、後日輪飾りを渡したと書いてあります。

のちにこの村を疫病が襲い、弟の一族は疫病により皆亡くなってしまいましたが、兄の一族は茅の輪をつけていたことにより、疫病の災いを逃れることができたと言われています。このことが神社での茅の輪に繋がっています。

日本の文化では様々な場面でお手拭きが使われています。手を洗い清める習慣は、清潔を第一として古くから伝えてきたことで、疫病等に対するお祓いの意味も込められていると思います。

我が国の素晴らしい文化をこれからも守り伝えていきたいと思っております。

【四つのテスト】 親松 明 会員

【閉会点鐘】 宇津木 茂夫 会長

【会報委員会】 大石佳 委員長

写真:大野勉 副委員長

